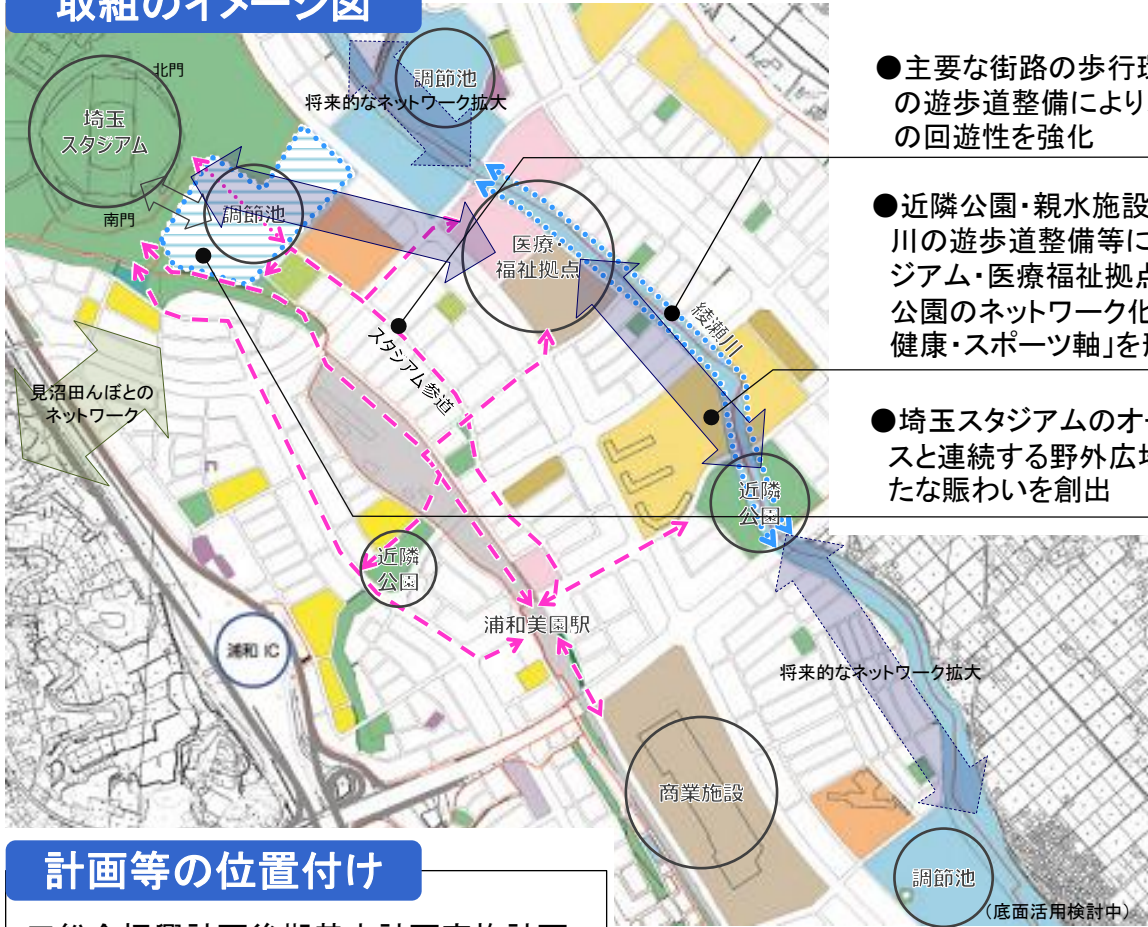


さいたま市では、美園地区においてスポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマとしたまちづくりを進めており、みそのウイングシティ整備基本方針において、水や緑などの自然環境と調和した街の形成を図ることとしています。

本提案では、主要街路の歩行環境改善及び綾瀬川の遊歩道整備によって生活者・来街者の回遊性を高めるとともに、調節池底面を野外広場として整備し、埼玉スタジアムと連続した新たな賑わいを創出させることで、スポーツ・健康のまちづくりを目指します。

取組のイメージ図



●主要な街路の歩行環境改善、綾瀬川の遊歩道整備により、居住者・来街者の回遊性を強化

●近隣公園・親水施設の整備、綾瀬川の遊歩道整備等により、埼玉スタジアム・医療福祉拠点・河川空間・公園のネットワーク化による「自然・健康・スポーツ軸」を形成

●埼玉スタジアムのオープンスペースと連続する野外広場を整備し、新たな賑わいを創出

計画等の位置付け

■総合振興計画後期基本計画実施計画
豊かな自然環境と調和した副都心にふさわしい魅力的な市街地の形成を図ることが位置づけられている。

■さいたま市浦和美園～岩槻地域成長発展プラン

地下鉄7号線延伸線沿線地域の成長・発展に資する方策として、調節池の利用等の憩い空間創出が位置づけられている。

■みその都市デザイン方針(みその都市デザイン協議会により作成中)

健康を育む水と緑の拠点を連続させる取組みとして、綾瀬川の遊歩道整備や親水空間整備、調節池底面活用が位置付けられている。

目標・成果指標

■自然・健康・スポーツ軸の形成

・埼玉スタジアムと綾瀬川を中心に良好なオープンスペースと都市環境を連続させ、イベント開催や健康増進プログラム等を実施することにより、来街者・居住者にとって魅力ある「自然・健康・スポーツ軸」を形成します。

成果指標	現在	整備後(H32)
定住人口 (みそのウイングシティ内)	6,976人 (H28.8.1時点)	10,000人
交流人口 (イベント開催・スポーツ振興)	470千人/年 (H27実績)	600千人/年

位置図



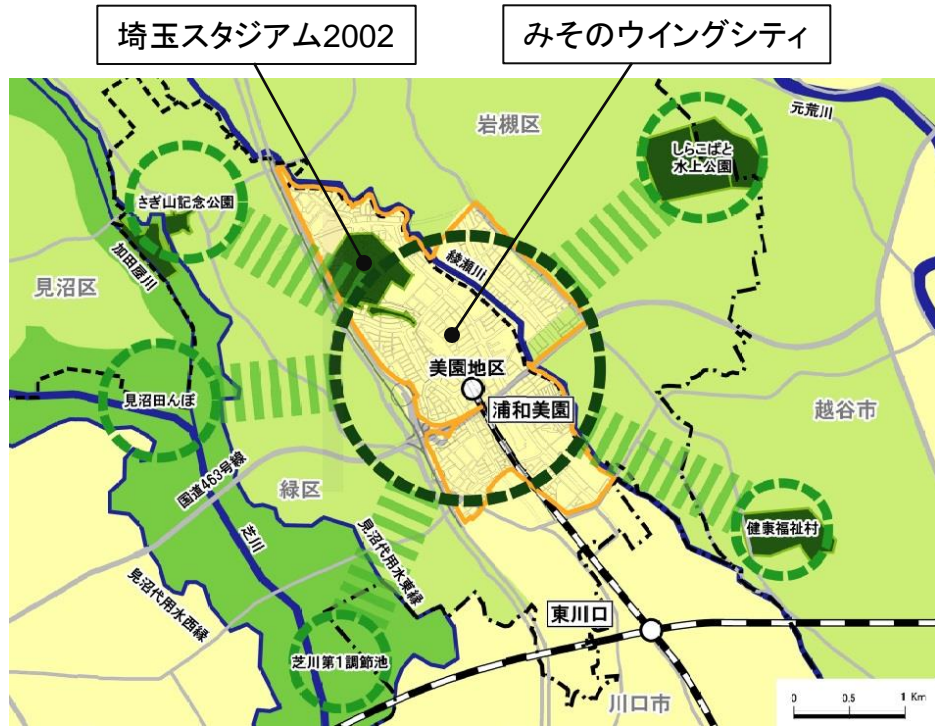
地区のシンボル・埼玉スタジアム2002



見沼たんぼ



みそのウイングシティ内の斜面林（下野田緑地）



埼玉スタジアム2002

みそのウイングシティ

川の状況

- 市内の綾瀬川は延長約15km
- 活動団体 2団体
(うち川の国応援団の登録 1団体)
※イオン浦和美園店
- 川の特徴
 - ・みそのウイングシティの区画整理事業と合わせた治水事業により、護岸整備が実施されている。
 - ・大規模な調節池が整備されており、治水機能以外にさまざまな用途での活用が検討可能。
 - ・都心から30分という立地から、民事業との連携も可能。
 - ・美園地区では、市内初となる都市再生推進法人がまちづくり活動を実施しており、連携することで河川の管理費用を削減できる可能性がある。

まちの状況

- 開発状況
 - ・埼玉県、さいたま市(旧浦和市・旧岩槻市)、URによる開発計画に基づく区画整理事業が実施され、H29.2にUR施行地区の整備が完了する。人口流入が進み、現在みそのウイングシティ内の人口は約7,000人(計画人口約32,000人)。
- 地域資源
 - ・埼玉スタジアムでの浦和レッズや日本代表国際試合の開催により、多くの集客がある。
 - ・地区内を綾瀬川が貫き、斜面林が点在する。また、見沼たんぼが地区に隣接しており、豊かな自然環境を有している。
 - ・調節池を活用することで、大規模イベント等の実施、メガソーラー設置による自立分散型都市の実現が可能
- 課題
 - ・定住人口、交流人口の増を図るため、スポーツ、健康、環境・エネルギーのみならず、市民生活を包含するあらゆる分野において、まちの魅力向上、ブランド化を加速度的に進めていく必要がある。
 - ・国内外に誇れる埼玉スタジアムを活かせていない。

